LADIES BADMINTON
連盟だより
大阪府レディースバドミントン連盟
第59号
令和3年10月

村井広美名誉会長を偲んで

哀 悼 の 辞

大阪府レディースバドミントン連盟
会長　廣 瀬 園 子

はからずも故村井広美名誉会長の哀悼の辞をしたためる日が来てしまったことは痛恨の思いです。去る令和３年５月 12 日、コロナ感染症蔓延の中、ご家族は勿論私達も面会もままならない状況下で村井さんは逝ってしまわれました。

大阪府レディースバドミントン連盟にとって偉大な創設者であり、連盟の礎を築いてこられた心から尊敬する指導者でありました。威風堂々とも言うべき風姿と共に、相手を飲み込んでしまうような先見の明ある弁舌は恐れにも似て、当初は身のすくむ思いをしたことが懐かしく思い出されます。

村井広美さんは常に何年も先を見ている方でした。まだまだ女性は家庭を守ることが役割という考えが普通であった時代に、スポーツを通じて女性が輝く社会でなくてはならない、その信念のもと志を同じくする連盟スタッフと共に数々の事業を推進してこられました。連盟を登録制とし、1000 人を超えることがまずの目標でした。それが達成できると次は 1500 人、それは止まるところを知らず、ピラミッドのように底辺は広く頂上は高く、それをモットーとする連盟創りでした。一方で連盟の組織拡充とバドミントン技術の強化は両翼であるというのが口癖でした。平成７年 1995 年に全国大会で初優勝を遂げた時はそれを実現させた瞬間であり、大阪が日本で羽ばたいた瞬間でした。当時強化部長であった私がその後連盟運営に携わることになったきっかけであったのかもしれません。くしくも同年、International Friendship Ladies Badminton Tournament を創設しました。その夢は日本から世界へと広がって行きます。のちにその開催成果により BWF WOMEN IN BADMINTON AWARD を受章することになりますが、それはここで紹介するまでもありません。

平成 12 年 2000 年に日本レディースバドミントン連盟理事長に就任し、事務局を東京から大阪へ移しました。統括されたレディース連盟は全都道府県くまなく組織化され、一歩一歩前進をして行きます。

業績を列記するにはページが足りません。でも私達の心には言い尽くせぬ無限の村井さんが残っています。事業を進めるごとに折々の言動と共にその姿が目に浮かびます。大阪府レディースバドミントン連盟がある限り村井さんは永遠に私達と共にあります。安らかな眠りの中で私達をいつまでも見守っていてください。

■役員経歴

略　歴	昭和 53 年	大阪府家庭婦人 (現レディース) バドミントン連盟理事長就任
	平成 7 年	国際親善婦人バドミントン大会 '95 主催 (現ヨネックス杯国際親善レディースバドミントン大会)
	平成 12 年	日本レディースバドミントン連盟理事長就任
	〃	日本バドミントン協会評議員就任
	平成 17 年	日本バドミントン協会理事就任
	平成 19 年	第 1 回全日本レディースバドミントン競技大会 (個人戦)　誘致、主管
	平成 29 年	日本レディースバドミントン連盟会長就任
	平成 31 年	大阪府レディースバドミントン連盟名誉会長就任
	〃	日本レディースバドミントン連盟名誉顧問就任
受賞歴	日本バドミントン協会　顕讃賞受賞	平成 7 年 10 月 27 日
	(公財) 日本バドミントン協会　功労賞受賞	平成 24 年 6 月 9 日
	日本レディースバドミントン連盟　連盟賞受賞	平成 25 年 4 月 25 日
	BWF WOMEN IN BADMINTON AWARD	平成 25 年 5 月 18 日

村井名誉会長を偲んで

顧問　池田紗千子

村井さんは日本女性のバドミントンにおける生涯スポーツの礎を築いた開拓者だと私は思っています。その強い意志と並外れた行動力で小さな組織であった私たちの連盟を現在の揺るぎない組織へと成長させた人だからです。そんな村井さんと共に歩んだ激動の数十年を語り尽くすことはできませんが、なりふり構わず突き進む村井さんをいつもやんわり押しとどめるのは現在連盟顧問の上田さんで、派手な喧嘩をするのが私でした。

それでも上田さんと私のNO！を強引にねじ伏せてご自身の想いを貫く村井さんでしたが、結局のところ自分にNO！と進言する人たちの存在を尊重し、重要な役割を担わせ組織作りに貢献できるよう図る人でした。

また個人的にはお茶目で繊細で家庭的な人であり、私と二人で指導員講習を受けた際には毎週私のお弁当まで作ってきてくれる優しい人でもありました。

今後、世の中がどのように変わろうとも、村井さんが残した多くのものが次の世代へのメッセージとなって、連盟の未来へ活かされていくよう村井さんはきっと願っているでしょう。そして私もそれを心から願っています。

村井広美を偲び思いをはせながら

顧問　上田光代

彼女は、大阪府レディースバドミントン連盟の重鎮であったと共に、今日の日本レディース連盟の組織づくりにおいて、日本各地をはじめ、世界に広めた人といっても、過言ではないと信じている。

平成12年、「日本家庭婦人バドミントン連盟」を「日本レディースバドミントン連盟」に改名。理事長に就任後、全国9ブロック（北海道・東北・関東・北信越・東海・近畿・中国・四国・九州）より評議員を立て、総会に全員出席できるように交通費の負担をすることから始め、協賛・協力企業の掘り起こしよりスタートした。

大会に於いては、団体戦の大会名を「競技大会」から「選手権大会」に改名。平成6年、個人戦を東西に分け、西日本大会は、大阪府レディースバドミントン連盟主催大会を移管し、東日本大会を新設、各地持ち回り開催となった。平成26年、ヨネックス杯国際親善大会を大阪府より移管し、日本レディース連盟の三大大会として、今日に至っている。

日本レディースの会員、役員の絶大な協力のもと、発想力・実行力には、誰にもなし得ない偉大な人物だったと尊敬している。

私にとって、村井広美という人物は、“良き親友”であった。

村井さんと東大阪 M.B.C の誕生記

副会長　西野幸子

東大阪市教育委員会主催のバドミントン教室が開催され、参加メンバーを中心に M.B.C は誕生しました。しばらくして村井さんが加わり、幅広い横の繋がりと学生時代のバドミントン経験を生かしクラブとして成長していきました。初代部長の黒田勝之氏とは意見の相違からよく議論されていたのを思い出します。ノックなどの練習も増えその厳しさに辞めてしまう部員もいましたが、残ったメンバーがそれぞれ部員集めにかけ回ったと聞いています。

1974年、M.B.C が中心となり東大阪市教育委員会と東大阪市バドミントン協会の協力をいただき、第一回大阪府家庭婦人バドミントン親睦大会（現個人戦）を、また同年、第一回関西家庭婦人招待親善バドミントン大会（西日本大会～現全日本個人戦）を開催しました。市のスポーツ教室から誕生した M.B.C が大阪の枠を超え一人立ちできるように成長しました。以後村井さんの先読みする能力は怯まず大きな発展へと邁進する事になります。

そのクラブも2020年に創部50周年を迎えました。記念事業を計画するもコロナ禍で開催できない事態になり村井さんに参加してもらえなかった事が悔やまれ残念でなりません。村井さんと共にプレーし、泣き、笑い色々な時を過ごして参りました。「頂点はより高く底辺はより広く」の精神を世代交代しながらも部員達に受け継いで参ります。

夢の実現 ∞ 2008 年 U.S.A. 大会開催の思い出

副会長　土肥昌代

国際的視野に立つ女性スポーツの発展という夢を乗せ大阪から発信した国際大会はセカンドステージを迎えました。2008 年 U.S.A. California Orange County Club にて第 14 回となる Anniversary 大会を開催したのです。当時村井さんは日本協会の理事で、東京で開催される YONEX OPEN JAPAN に関わる役職にありました。U.S.A. 代表として参加の MayMangkalakiri 選手に会い、彼女のお母さん Tim さんがマネージャーである OCBC と交渉し、大会開催の打診と会場の確保を依頼しました。オーナーの Mr.DonChew とはマイアミで開催された U.S. シニア大会の帰りに立ち寄り面識があります。氏と村井さんはロブスターを賭けたゲームで花を持たせてもらい、意気投合？の仲でした。翌年 YONEX OPEN 来日の Tim さんと綿密に打ち合わせをし、YONEX U.S.A. のご協力もいただくことになり実現へと進展して行ったのです。広い国土のわりにプレイ人口が少ない U.S.A. バドミントンへの啓蒙活動に加え、国内外へ私たちの国際大会をアピールする絶好の機会となり、国際大会発展への契機となりました。この大会の成功は故村井広美名誉会長の夢の実現の一つです。

第 14 回国際親善レディースバドミントン大会 in U.S.A. 2008
平成 20 年 10 月 19 日　O.C.B.C

村井さんの意思を引き継いで

理事長　竹田由美子

村井さんと過ごした中で印象に残っているのは全国大会の優勝です。連盟の組織拡充と技術強化を掲げた村井さんにとってこの優勝は悲願だったと聞いております。勝負にかける思いが人一倍強かった村井さんはやきもきしながら試合を見守っていた事でしょう。日本一になった喜びを何度も共有できた事は私の誇りでもあります。叱咤激励もありましたがそれもいい思い出です。

村井さんの目指した全国の連盟組織は確立され、全国大会や国際親善大会は定着し毎年熱い戦いが繰り広げられています。そして、国内のみならず海外にも功績を認められ、海外の仲間も増えました。

私達は村井さんの築いて来られたレールの上を脱線しないように進みながら、その道のりが楽しくやりがいのあるものになるように仲間と力を合わせて次の世代に繋いで行く覚悟です。

連盟では来年の 2 月、村井さんを偲ぶお別れの会の準備を進めております。時間の許す方は是非一緒にお別れしてください。

第 28 回全日本レディースバドミントン選手権大会
平成 22 年 8 月 3 日　宮城県

オリンピック・パラリンピックレポート

感動　感謝　夢舞台

百野郁子（あい CLUB）

1年延期となったTOKYO2020。線審として参加させていただくことができました。

オリンピックではロンドンに続き2回目、パラリンピックは初めての参加となります。毎日のPCR検査、バブルの中での任務遂行と徹底した感染対策の中、大会は行われました。オリンピックは、朝と夕の2部制。朝7時に出発し、夜9時や10時に会場を出るという長い任務に加え、感染対策という普通は行われない手順があり審判業務とは違った疲労や緊張がありました。もちろんオリンピックで線審をしているのだという緊張感は格別で、最終日決勝種目の線審ができた時は、金メダル獲得の瞬間に立ち会えた感動と無事任務を終えることができたという感謝の気持ちが重なって、涙がこみ上げてきました。

パラリンピックでは終日の試合構成で朝から晩まで任務に当たりました。種目によってコートの広さやジャッジするラインも変わるのでオリンピックとはまた違った緊張感がありましたが、日本人選手が優勝を決め、会場で君が代を聞いた時には疲れも吹き飛びました。皆様の応援のおかげで無事線審の任務を終えることができ、本当に貴重なかけがえのない経験をさせていただくことができました。本当にありがとうございました。

Priceless な経験！

山内菊子（清水クラブ）

東京2020オリンピックにボランティアとして参加する機会をいただきありがとうございました。

私はアスリートラウンジにあるインフォメーションの担当でした。ここには選手やマネージャーさんがお問い合わせに来ました。最も多かった仕事は、希望される試合の映像をダウンロードしてお渡しすることです。大会の映像はすべてBWFの管理下にあり各自で撮影することができないからです。自国選手だけでなく対戦相手を分析するためにたくさんダウンロードされる国もありました。

ラウンジには選手がくつろぎに来たり試合のライブ中継を見にきたりするので有名な選手の素顔を垣間見られたのはラッキーでした。

また、ここには試合の細かいデータもすべて数字で送られてきました。各試合の最大ラリー数やチャレンジの数、使用シャトル数などが、試合の横ですべてほぼ手作業にて記録されていることに驚きました。

このような大きな大会を裏から見ることができてとても面白く勉強にもなりました。この貴重な経験を今後の我々の国際親善大会にもぜひ活かしていければと思います。

東京オリンピック活動を経て

米倉恵里（東大阪 M.B.C）

まず初めに、多くの方がオリンピックに携わりたいと思われていた中、自分が参加させて頂いた事に感謝しています。

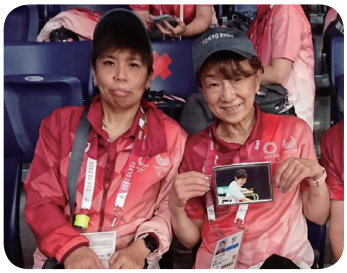
そして15日間もの期間、家を空ける事を理解し快く送り出してくれた家族に感謝です。

オリンピックではフィールドキャストとして練習会場の運営、試合中のモッパー、試合後の消毒等の活動をしました。有り難い事に選手に近い場所での活動でした。

そして審判部員として1番見たかった事の1つがBWFの国際審判の方々のマッチコントロールや審判中の表情でした。今回間近で見る事ができ、今後の自分の審判としてのスキルアップに繋がればと思います。そしてこの経験を色々な方と共有し、レディース連盟の活動に繋げていけるよう努めてまいります。

パラリンピックに参加させて頂いて

福田美絵（鴨谷クラブ）



パラバドミントンは、競技区域が種目によって変わります。またパラリンピックでは主審、サービスジャッジ、線審、モッパーと整列して入場するのですが、コートごとに入退場の動線が違い、毎回毎回確認することが多くとても大変でした。

しかし、プレーが始まるとその素晴らしい内容にとたんに引き込まれました。

普通に動けないからこそ繰り広げられる駆け引き重視の頭脳プレーや男子車いすダブルスでは、サイドバイサイドからトップアンドバックへのローテーションありの、迫力あるプレーが本当に素晴らしく、私もこのように考えてプレーしないといけないなと考えさせられました。

審判員として、またプレイヤーとしてとても勉強になりました。

今回パラリンピックに参加させて頂いて経験した様々な事柄を、これからの審判活動に活かして大阪の審判レベルアップに繋げて頑張って行きたいと思います。

発　行　大阪府レディースバドミントン連盟
〒577-0804 大阪府東大阪市中小阪5-12-4　ローリエ八戸ノ里201
http://osakalbad.jp/
責任者　竹田　由美子　　編　集　広報部